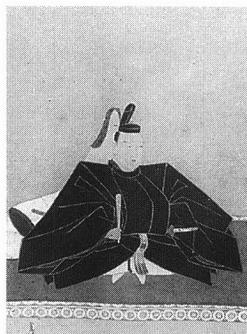


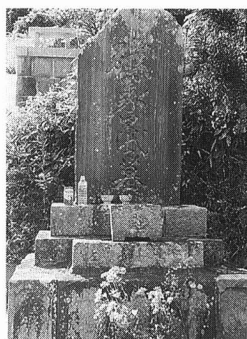
## 2 二合田用水

二合田用水は、いつごろ、なぜつくられたのでしょうか。

二合田用水は、今から350年ほど前に、二本松の殿様（丹羽光重）が、城を守るために、磯村吉徳と山岡権右衛門という人に命じ、安達太良山の中ふくから引かせた用水です。



丹羽光重の肖像



磯村吉徳のお墓

### ○丹羽光重 (1621年~1701年)

1637年、父長重がなくなり、白河藩主となる。1643年、二本松藩たん生にともない、初代藩主となる。藩のきまりを定めたり、城をなおしたり町なみを整えたりして、二本松藩のきそをきずいた。二合田用水のけんせつ計画が立てられたのが1652年ごろと考えられるので、二合田用水のけんせつは、藩主光重が命じたものと考えられる。

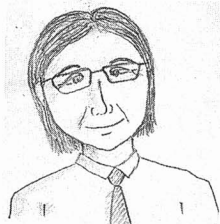
### ○山岡権右衛門 ( ? ~1669年)

二本松藩士。二合田用水を考えた人と伝えられている。二合田用水のそくりょう・せつ計を行った磯村吉徳をすいせんしたのも山岡権右衛門といわれている。幕府にゆるしをえない工事のため、藩士の身分をはなれたともいわれている。

### ○磯村吉徳 ( ? ~1710年)

和算家。尾張国（今の愛知県）に生まれ、1658年に二本松藩にめしかかえられ、二合田用水のそくりょう・せつ計を行った。おはかは、根崎善性寺にある。

### 〈むかしのことにくわしい根本さんの話〉



二合田用水がつくられたころは、武士と呼ばれる人たちが中心の世の中で、二本松も現在の霞ヶ城公園の中にお城があり、丹羽光重というお殿様がおさめていました。お城を守るには、十分な水が必要ですが、お城山にはその水が十分にありませんでした。そこで、お城に用水を引く計画が立てられたのです。のちに、この用水は、城下の生活排水をきれいにしたり、火事の時に使われたり、農業用水としても使われるようになりました。